

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （ 教育学 ）	氏名	陳 俊																
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当																		
<p>論 文 題 目</p> <p style="text-align: center;">幼児の幼稚園適応における親の関わりに関する研究 — 中国山東省の例を中心に —</p>																			
<p>論文審査担当者</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">主 査</td> <td style="width: 20%;">教 授</td> <td style="width: 20%;">七木田 敦</td> <td style="width: 40%;"></td> </tr> <tr> <td>審査委員</td> <td>教 授</td> <td>丸山 恭司</td> <td></td> </tr> <tr> <td>審査委員</td> <td>教 授</td> <td>小川 佳万</td> <td></td> </tr> <tr> <td>審査委員</td> <td>教 授</td> <td>中坪 史典</td> <td></td> </tr> </table>				主 査	教 授	七木田 敦		審査委員	教 授	丸山 恭司		審査委員	教 授	小川 佳万		審査委員	教 授	中坪 史典	
主 査	教 授	七木田 敦																	
審査委員	教 授	丸山 恭司																	
審査委員	教 授	小川 佳万																	
審査委員	教 授	中坪 史典																	
<p>〔論文審査の要旨〕</p> <p>本論文では、中国における幼児の教育に対する親の関与と親子関係を明らかにし、それが幼児の幼稚園適応にどのような影響を与えているのかについて分析することを目的としたものである。</p> <p>論文の構成は、次の通りである。</p> <p>序章では、「幼児の幼稚園適応の重要性」、「幼児の教育に対する親の関わり的重要性」、「幼児の教育に対する親の関わりと幼児の幼稚園適応との関係」、「中国における家庭教育政策の動向」、「中国における親の関わりに関する幼稚園教育実践上の問題点」という面から本論文の背景を説明し、さらに、中国では、幼児の幼稚園適応について検討する際に、親の関わりと幼児の幼稚園適応の関係性について、親子関係から分析した研究がほとんどないという現状から、本研究の意義と目的について述べた。</p> <p>第1章では、幼児の教育に対する親の関与、親子関係、幼児の幼稚園適応に関する先行研究について検討し、中国の幼児の幼稚園適応における親の関わりに関する先行研究における限界性について述べた。また、本研究において用いられた理論的アプローチ（「家族システム理論」）について説明し、中国における特徴的な概念を定義した。</p> <p>第2章では、本研究において利用された混合的研究法（Mixed-Methods Design）、つまり量的調査と質的調査を組み合わせる必要性などについて述べた。さらに、アンケート調査とインタビュー調査において得られたデータを分析する際に用いられた方法についても説明した。</p> <p>第3章では、本研究における調査の妥当性、信頼性などを確保するために、本調査を実施する前に行われた予備調査の結果と考察について述べた。</p> <p>第4章では、中国における幼児の教育に対する親の関与の現状を明らかにした。また、分析の結果から、中国における幼児の教育に対する親の関与の現状の背後における原因及び「家庭と学校・幼稚園の提携の重要性を十分認識していない」とい</p>																			

うような課題などについて考察した。

第5章では、中国における親子関係の現状を明らかにした。また、分析の結果から、中国における親子関係の現状の背後における原因及び「きょうだいを有する家庭」における親子関係の問題点などについて考察した。

第6章では、中国における幼児の幼児園適応の現状を明らかにした。また、分析の結果から、中国における幼児の幼児園適応の現状の背後における原因及び中国の幼児の幼児園適応における「公」と「私」の間のギャップなどについて考察した。

第7章では、中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼児園適応の関係性について分析し、特に親子関係が親の関与と幼児の幼児園適応の間における媒介役割を明らかにしたことについて述べた。

また、結果の考察として、これまで中国の幼児教育実践では、幼児の幼児園適応に対する親子関係の役割が十分認識されてこなかったが、今後は幼児の教育に対する親の関与と親子関係と幼児の幼児園適応を1つのシステムで考えながら、各家庭における親子関係に対する指導と改善をさらに視野に入れるべきであるという示唆についても述べた。

第8章では、質的研究の方法を利用し、量的調査において明らかにした中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児園適応の現状及び関係の傾向を検証し、再検討した。特に、結果の考察として中国における親の関わり背後における親の動機、問題点及び親子と共に直面している課題などについて述べた。

終章では、本研究の限界性及びそれを巡って展開されるべき今後の課題について述べた。

本論文は、次の3点で高く評価できる。

1. 1500組以上の中国の親と幼児及び教師に向けて量的調査を実施することによって、中国における幼児の教育に対する親の関わりと幼児の幼児園適応の現状及び関係性を明らかにし、また、質的研究の手法によって検証し、より信憑性の高い方法を通して研究の結果まで辿り着いた。

2. 「きょうだいを有する家庭」や親の職業を「公」と「私」に分けることなど、中国独自の事情をもとに、先行研究では用いられたことが少ない変数を設定することによって、本論文の独自性を高めることができたと考えられた。

3. 中国における幼児の幼児園適応に関する親の関わりの影響を明らかにすることによって、今後、中国における教育施策の改善にとって、理論的な依拠を提供し、家庭教育の支援にも寄与できると考えられた。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和6年2月14日